

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：心花保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：中村 克矢	定員（利用人数）：80 名	
所在地：〒211-0033 川崎市中原区木月祇園町15-6		
TEL：044-433-0587	ホームページ： http://kohanahoikuen.com/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2016年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人美希福祉会		
職員数	常勤職員：20 名	非常勤職員：4 名
専門職員	（専門職の名称）： 名	
	保育士：18 名	看護師：1 名
	子育て支援員：3 名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	乳児室1室	遊戯室（ホール）
	ほふく室1室	医務室（事務室に含む）
	保育室4室	調理室1室
		事務室1室

③理念・基本方針

<理念>

- 「心のふるさと」になるような保育園づくり
乳幼児期の最も重要な時期の記憶に愛情をたっぷり与える保育を実施する。
縦割りを意識した保育を中心に思いやりのある子を育てる。
（通常保育・縦割り保育・制作・行事等）
- 地域のみなさまにも暖かく受け入れてもらえる保育園づくり
周囲への感謝の気持ちを育み、地域社会と共に生きる保育園を目指す。
（一時保育・園庭開放・地域行事への参加・保育園行事への参加・育児相談等）
- 安心して子育てができる保育園づくり
子どもの第二の家庭として暮らしを大家族のような雰囲気でも包み込む。
（朝夕延長保育・育児相談・防犯防災活動等）

<保育目標>

- 自分を大切にし、人の気持ちを大切にできる子ども
- 心身ともにたくましくみんなと元気に遊べる子ども
- 思っていることをはっきり言える子ども
- 自分の持っている力を出し、最後までやり遂げる子ども

乳幼児期は基本的な人間形成をする大切な時期です。この時期に一人ひとりの人格や個性が尊重され、豊かな人間性を形成することが大切だと考えています。
 保育園は子どもが一日の生活の大半を過ごす場所になります。当園では、子どもの最善の利益を考え、子どもの権利が尊重される保育を目指しています。子どもたちが様々な経験を通して、素直にのびのびと成長していった欲しいと願っています。

④施設・事業所の特徴的な取組

<心花保育園の特徴的な取り組み>

<職員研修>

研修は園外、園内に問わず必ず必要だが、研修を内容（結果や効果）がその保育士だけに留まることのないよう必ず研修報告会を研修終了後10日以内に実施している。時代背景やその時に社会から求められるニーズも変わっていく上で研修は保育、保育士の資質向上のためにも最も重要だと考える。

<第三者評価>

施設（保育サービスの提供内容）を客観的に評価する第三者評価に対しても、保育の適切な質を担保するには必要だと考える。園としても今後3年ほどのサイクルで受審し、更なる質の改善を図っていききたい。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年10月05日（契約日） ～ 2021年03月30日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（ 年度）

⑥総評

【心花保育園の概要】

●心花保育園の運営母体は、社会福祉法人美希福社会（以下、法人という）です。法人は、事務局を横浜市に置き、福岡県久留米市に2園、そして福岡市、横浜市、川崎市、東京都にそれぞれ1園を運営しています。法人では、各園を開設している自治体の方針、公的補助等の形態が様々であることを踏まえ、法人本部機能を強化して一括対応するよりも、各保育園が所在する場所に依りて対応に努めることにより、行政との距離感、連携が図りやすいと考え、運営権限を大幅に各園長に委ね、各園の独立経営を実施しています。保護者や地域の方々とのコミュニケーションを大切にし、地域社会に貢献できる保育園を目指しています。

●職員の教育については、法人全体で共通の「ポリシーブック」を作成し、統一ある教育を進めています。「ポリシーブック」の根幹には、外に対しては「地域社会から期待される保育園」を目指し、子どもに対しては「自分を大切にできる」個々の育成を目指し、“自分を大切にできるから人の気持ちを大切にできる”ことを教えています。この教えは、全職員、保護者にも同様に伝えていきます。「ポリシーブック」の内容は、観念的な内容で構成され、「～すべき」、「～べからず」と言う同化的な強要ではなく、各項目について職員が参加型で話し合う研修を行い、その過程・ディスカッションの結果を大切にする教育を実施しています。職員自身は「自分を大切にできる」を常に心がけ、子ども・保護者に対しても「自分を大切にできるから人・子ども・保護者の気持ちを大切にできる」を実践し、育成及び成果が日々の保育に生きています。

●心花保育園建物の内装及び間取りは法人で担当し、間取り等は如何にも保育園という作りにせず、装飾・備品を含め、わが家のような雰囲気大切に設計されています。階

段の途中には丸窓を作り、子どもたちが階段の上り下りに外が見えるようにし、厨房はガラス張りの中で美味しい給食が出来上がる過程が見える等、「たのしいお家」をイメージして設計されています。ホームページのイメージ戦略にも拘りが感じられます。保育園の名前は、「いつも心に花を」の意味を込めて命名されています。

◇特に評価の高い点

1. 【縦割り保育】

●心花保育園では、3歳以上児の各クラス（3歳児：ローズ、4歳児：オリーブ、5歳児：ミント）の他、3歳～5歳児合同で7人ずつの縦割りクラス（ミルク・ココア）を設定して活動しています。基本的に、日中は縦割りのクラスで過ごしていますが、年齢別保育の活動をしっかり設定した上で実施し、年齢別のクラスを超えて異年齢で関わりながら活動する保育を積極的に取り入れています。縦割り保育では、子どもたちが兄弟姉妹のように助け合いながら成長し、職員と共に大家族のような雰囲気の中で愛情をいっぱい受け、心花保育園の子どもたちは伸び伸びと明るく、豊かな感性を育てています。縦割り保育により、自分よりも小さな子どもとの関りの中で育まれる思いや、大きなお兄さん、お姉さんとの関りの中で自然と自分達で学び、育っていける環境を提供し、職員はその関りの手助けをすることで人間関係の基礎を培っています。また、異年齢の子どもと関わることにより、年下の子どもに優しくする気持ち、他人をいたわる気持ちが芽生え、年下の子どもは年上の子どもの行動を見て自分もやってみようという意欲・憧れを抱くようになる等、異年齢間の遊びのルールを自然と覚え、互いを認め合える関係を構築しています。「人」との間に必要で大切な豊かな感情を育てています。

2. 【子ども・保育士・保護者、三者の良い関係性】

●心花保育園は、保育士が元気で伸び伸びと保育に当たっています。「環境が人を作る」にあるよう、洒落た雰囲気の「お家」のような環境の中、職員間は仲が良く、良好な人間関係が構築され、明るく、自信を持って仕事に当たり、働きやすい職場環境が作られています。勤務状況では有給休暇、代休等も比較的本人の思い通りに取得できており、ワーク・ライフ・バランスも概ね満足し、充足したエネルギーが日々、保育に生かされているように見受けられます。この職員間の良い関係が、連携・「報連相」・共有を確立し、それが子どもや保護者へ伝播し、子どもたちは保育士を慕い、保護者は信頼を寄せ、さらに、地域住民とも良好な関係が築けています。保育園は先ず人間関係を第一（おもいやり）とし、円滑な環境の中でこそ子どもたちも伸び伸びと育まれると考え、継続して良好な関係作りに努めています。

3. 【特別レッスン】

●心花保育園では、特別レッスンとして、3歳～5歳児対象に「お楽しみ英会話」（週1回）、「美術教室」（月2回）、「体操教室」（月2回）を行っています。また、有料にて保育時間内に「スイミング」、「ECCジュニア（英会話）」、「ピアノ」（各、週1回）を希望者のみ、レッスンを受けることができます。保育時間内に行う「お楽しみ英会話」、「美術教室」、「体操教室」については、保育向上につながる目的で採用しているプログラムであり、「英会話」では、異文化に接する目的で英語に触れ、「美術教室」は自然を愛し、デッサン・構図等の感覚・感性のスキルアップを図り、「体操教室」は、転倒予防の為に運動能力を高め、身体の発達促進を目的に取り入れています。希望者のみの「スイミング」、「ECCジュニア」、「ピアノ」については、子どもに習い事をさせたい家庭でも保護者の就業事情により土日に集中せざるを得なく、子どもが週末にゆっくりと家庭で休む時間が削られることを考慮して、園側で保育時間内に習い事のサポートとしてサービスを提供しています。この企画は有料ですが保護者に歓迎されています。

◇改善を求められる点

1. 【心花保育園らしい園風土の醸成について】

●園長は、園運営、保育園の概念として、子どもたちや保護者の方々に「もう一つのお家」として体感してもらいたい思いを持ち、理想の園作りに尽力しています。保育園内は、壁は木目調を基本にし、落ち着いた色合いの内装で、装飾・備品はシックな雰囲気のものを取り入れ、職員の服装も華美に走らず、かと言って作業衣ではない雰囲気を標準として、利用者に対して心地良い環境を提供しています。また、園長の理想の園作りは途上にあると思われませんが、系列園と同じである必要は無いと思います。地域性も異なることから、方向付けのベクトルさえ同じであれば、「これが心花保育園」と言えるようなアイデンティティを確立し、園名の源である「いつも心に花を」のビジョンが完成することを期待しております。

2. 【多種多様なボランティアの受け入れ】

開園して4年目の保育園であり、ボランティアの受け入れ要請は少ない状況です。中学生の体験学習の受け入れ実績がありますが、教育的観点からも、さらに近隣の中学校・高校に呼びかけ、未来の保育従事者の発掘・育成に向けて、受け入れ実績が増えるような試みを期待いたします。中原区社会福祉協議会に積極的に働きかけ、「お話ボランティア」等、紙芝居や絵本の読み聞かせのグループの紹介や、地域の老人会との交流等、様々な切り口からボランティアの受け入れ・活用方法が考えられます。新型コロナウイルス感染症拡大という社会情勢の中、ボランティア受け入れが難しい側面もありますが、収束後を見据え、地域の中から、積極的に情報を収集し、マニュアル策定、オリエンテーションの実施等、受け入れ体制を構築し、「地域と共に歩む心花保育園」を目指していけると良いと考えます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： 心花保育園

<評価に取り組んだ感想>

園として初めての第三者評価を受審するにあたり、まずは私たちが行っている保育の姿をそのまま確認いただくという考えのもと受審しました。受審から評価を通して園として保育の自己評価が出来たこと、また、職員間でも保育のさまざまな面における再認識や内容（情報）の共有ができたこともあり、大変有意義な機会となりました。あわせて保護者からのアンケートでは園に対する評価、ご意見等をいただくことにより、保護者の持つ園に対する思いや期待を確認することができ、私をはじめ職員一同の今後の励みとなりました。評価結果でご指摘いただいた各事項は、今後のより良い保育を実践する上での具体的な示唆となり、改善点を来年度や長期的な事業計画の中に生かしていきたいと考えています。これからも保護者の方や地域の方から喜んで頂けるような保育園を目指して努めていきたいと思っております。

<評価後取り組んだ事として>

1. 第三者評価結果内容の共有と園全体としての自己評価や保育内容の棚卸し
第三者評価結果内容の共有のための園内研修を実施し、保護者対応を含む園全体として

の自己評価を行った。

2. 保護者対応を中心とした研修の実施

保護者アンケートに基づいた園内研修を実施し、連絡帳を含む保護者への周知方法や具体的な対応について検討した。私たちの思いの全てが伝わっていない部分もあったことから、よりわかり易く、伝わりやすくするための工夫（文言だけではなくイラストや動画等の活用）を今後行っていく。

3. 地域に開かれた園として認知・定着化させる

このような状況下ではあるが近隣園、高齢者施設等と交流を再開させる。令和3年度より徐々に再開できるよう手配した。今後はボランティアの受け入れをはじめ、より開かれた園として認知いただけるよう取り組んでいく。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり